

平成29年2月1日

会員各位

協会だよりー290(2月号)

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

トピックス：

● 第231回月例会（講演会&新年会）

日 時：平成29年2月9日（木）講演会 15時～17時半頃、
新年会 17時半～19時半頃

会 場：如水会館（千代田区一ツ橋2-1-1）

講 演：① 野村興産㈱代表取締役社長 藤原 悌様
② アドバンストマテリアルジャパン㈱代表取締役社長 中村繁夫様



- 一. 協会よりのお知らせ
【実施済事項】
- 二. 二〇一六年資源化実績回答状況
【予定事項】 (1/31)
- 三. 事務局より（二年度の予定）
- 四. 【雑学】町田市の境界を巡る9.
(多摩境駅～箭幹八幡宮まで)

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

- ① 協会だよりー289（1月号）をメール&郵便で送信（12/28）
- ② 第五回運営委員会

日 時：1月19日（木）16：00～17：00

場 所：堺化学工業㈱東京支店

出 席：運営委員・第231回月例会幹事会社

【予定事項】

- ① 第35回 JSCRA 会（協会ゴルフ大会）のご案内（2/9頃）
日 時：平成29年4月上旬予定
場 所：現在幹事（小島化学薬品㈱・㈱徳力本店）で選定中（厚木国際GC4組構想）

② 第231回月例会(講演会&新年会)

日 時:平成29年2月9日(木)

講演会 15時~17時半頃、新年会 17時半~19時半頃

会 場:如水会館(千代田区一ツ橋2-1-1)

講 演:1. 野村興産(株)代表取締役社長 藤原 悌様

2. アドバンストマテリアルジャパン(株)代表取締役社長 中村繁夫様

③ 第一回広報委員会

日 時:2月下旬(日時は委員長と相談の上)

場 所:ジョンソンマッセイジャパン(合)

出 席:広報委員(JMJ, JX 金属、川研ファインケミカル)、専務理事

④ 第一回調査・技術委員会

日 時:2月下旬(日時は委員長と相談の上)

場 所:日興リカ(株) 又は太陽鋳工(株)の会議室をお借りして

出 席:調査・技術委員(エヌ・イーケムキャット、日興リカ、太陽鋳工、キンキメタル産業、アジア物性材料)、専務理事

2. 2016年資源化実績回答状況(1/31現在)

2016年(1月~12月)の資源化実績について報告をいただく会員(回収実績の有無に関わらず)は計39社です。1月31日(火)午前中までに返信いただいた会員は26社で、後13会員よりの報告待ちとなっています。2016年の回収実績有無に関わらず事務局までメール返信にてお知らせくださるようお願いいたします。

3. 事務局より(2月度の予定)出勤予定:9日間、赤・個人予定あり。

火曜日・木曜日を主出勤日としております。

日	月	火	水	木	金	土
1/29	1/30	1/31	1	2	3	4
× (M)	×	○	×	○	× (M)	× (C)
5	6	7	8	9	10	11
× (C)	× (M)	○	○	231月例会	×	× (S)
12	13	14	15	16	17	18
×	×	○	×	○	×	× (W)
19	20	21	22	23	24	25
×	×	○	×	○	×	×
26	27	28	3/1	3/2	3/3	3/4
× (M)	×	○	○	○	×	× (W)

4.【雑学】町田市の境界を巡る9.（多摩境駅～箭幹八幡宮まで）

今回のコースは、京王相模原線多摩境駅（町田市）を出発して、おおよそ町田街道と境川に沿って多くの（7社）社寺や旧跡を訪ね、箭幹（やがら）八幡宮までのハイキングとなる。

《札次神社》町田市小山ヶ丘 3-17-2554



多摩境駅を出て坂を下るとすぐ札次神社がある。創建時期は不詳だが、常陸国（茨城県）一の宮鹿島神宮を勧請したもので、祭神は武神の武甕雷命（たけみかづちのみこと）である。鳥居脇の「蚕種石」は養蚕振興や子孫繁栄を願った祈願の石である。幕末から明治期に、八王子から町田にかけて町田街道が「絹の道」といわれていることから、ここ小山町でも養蚕が盛んであったことが伺われる。札次神社から福生寺に向かう。

《福生寺》町田市小山町 2524



住宅街を抜けて一度町田街道に出て、坂を上ると福生寺に到達する。真言宗のお寺で、智山派設弥山（せみさん）福生寺と称する。

開山は、天福元（1233）年、玄良法師、開基は天野彦兵衛清彦である。本尊に随持して安置されている木造菩薩立像（右脇持、左脇持の2体）がある。制作年代は十一世紀末から十二世紀後半と思われる町田市指定の有形文化財となっている。

福生寺から小山市民センターの町田街道へ出る途中には、町田市観光ガイドにも紹介され、明治初期より操業する、天然醸造味噌で有名な「井上糍店」がある。これより境川沿いに進むため、小山市民センターで第一回目のトイレ休憩となる。



小山市民センター前で町田街道を横断して境川へと至る。安易な命名とは思うが、下流に向かって橋の名称は大正橋、昭和橋、平成橋と年号順に命名されている。更に大正橋より川沿いに遊歩道が「境川ゆっくりロード」と名付けられ、自転車・歩行者専用道路（歩行者優先）となっている。しかし、自転車の往来が激しく、歩行者優先とは名ばかりである。

平成橋より境川を離れ、小山駐在所で町田街道を横断して御岳神社へ向かう。御岳神社は境川の河岸段丘か、小高い丘の上にある。今度は丘に登ることになる。





《御岳神社》町田市小山町 1277

神社の創建時期は不明だが、祭神は日本武尊である。（小山村）御嶽社地、二千七百坪餘、字御嶽堂と云所にあり、小社にて四間四方の覆屋を建つ、前に拝殿あり、二間に三間すべて南向なり、その前に石階五十四級ありて、中ほどに木の鳥居を建、例祭七月十七日、下郷の鎮守なり、以上の二社は福生寺御朱印の内にして、共にかの寺の持也。（新編武蔵風土記稿より）上の写真の通り、新編武蔵風土記稿にも小さな拝殿で、石段54段ありと記載されている。参加の皆さん、石段登りに、ちょっと躊躇の様子である。しかし登ったこの高台よりの眺めは爽快である。御岳神社を下り、南多摩尾根幹線道路（巨大な道路）を横断し長泉寺に至る。



《長泉寺》町田市小山町 1115



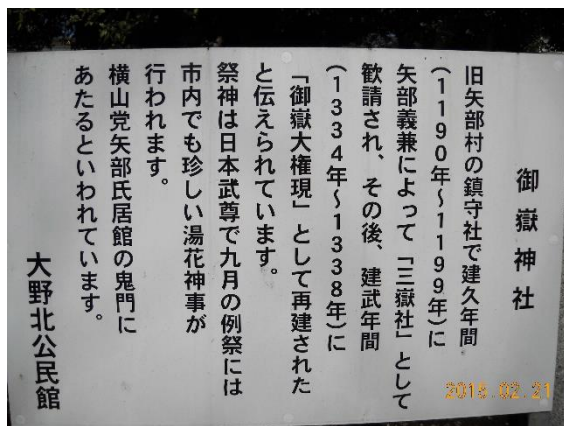
蒼龍山長泉寺といい、曹洞宗（禅宗）のお寺である。謂れを記した石柱には、創建 永禄年間（1558～70）、開山 照室恵鑑大和尚、本尊 釈迦牟尼仏、大本山 福井永平寺開祖道元禅師、鶴見総持寺開山瑩山禅師とある。山号の「龍」と寺号の「泉」は、水を連想させ、田の豊

作を祈って建立されたと考えられる。明治6年5月、現・小山小学校の前身の「誠教学校」が誕生した場所でもある。明治政府は初等教育を義務教育化した。が、財政不足で、各町村（自治体）に学校設立を丸投げした格好である。従って町田の村々では、資金を名主や豪農が負担し、教場もその地区の大きなお寺を用い、教師は主に地区で教養のある住職が担当したと言われている。小野路村（現・町田市小野路）では明治4（1871）年に開学した小野郷学の仮校舎の一つが萬松寺に置かれた。また相原村（現・町田市相原町）では相原学校が長福寺に置かれている。



長泉寺に別れを告げ、町田街道沿いに出る。途中街道沿いの中村不動尊をお参りして、境川の上中村橋へ向かう（境川の対岸が河川改修で町田市の飛び地となっている。そのため町田と相模原の飛び地はかなりの数になる）。また境川の相模原市側は、現在では一等地ながら実に広大な米陸軍相模原補給廠となっている。上中村橋より馬場橋まで、境川沿いに進む。馬場橋を渡って相模原市に入り、川沿いの静かな林の中に鎮座する相模原市上矢部の御嶽神社へ向かう（ここにも御嶽神社が！）。

《御嶽神社》相模原市中央区上矢部 2-23-1



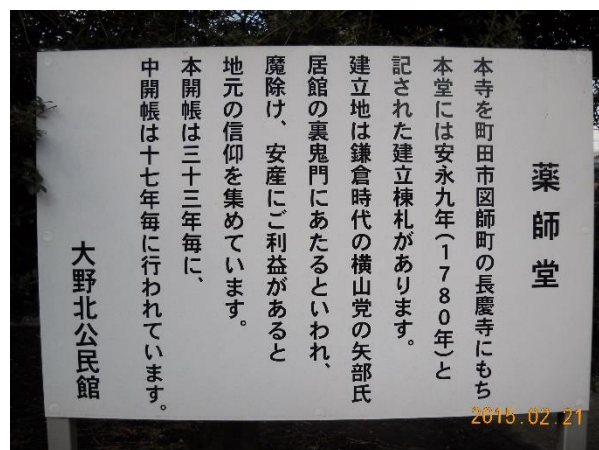
御嶽神社の創建年代等是不詳ながら、矢部義兼が建久年間（1190-1199）に三嶽社として勧請、正覚院浄因が建武年間（1334-1338）に御嶽大権現として再建したと伝えられ、旧上矢部村の鎮守社といわれている。ここより、少し境川を離れ、相模原市側の河岸段丘の坂道を登って横山党矢部氏を訪ねる旅となる。上矢部の板碑、薬師堂、矢部氏居館土塁跡を訪ねる。

《上矢部の板碑》 相模原市中央区上矢部 3-12



この地に居館を構えた「矢部義兼」の供養碑と言われている。義兼は横山党の一族、藍原（今の相原か？）二郎太夫孝遠の三男で矢部三郎と称した。義兼は建暦3（1213）年、和田の合戦で敗れ、没後90年に遺族や旧臣により板碑が建立された。

《薬師堂》 相模原市中央区上矢部 4-13



《矢部氏居館土塁跡》 相模原市中央区上矢部 5-1-22

電車で行くとJR横浜線矢部駅境川に向かって徒歩15分の所。土塁の中は現在民家。



土塁と思われる土手

横山党と呼ばれる武士団は、12世紀後半に八王子から南に進み、境川流域の相原に館を構え栗飯原と名のり、この兄弟の一族が勢力を広め小山・矢部・田名氏等を名のった。

上矢部の土塁は、古くより矢部氏の館跡といわれ、近くには和田合戦で滅亡した矢部氏の供養のために建てられた板碑がある（上矢部の板碑で紹介）。ここの土塁の西側（板碑の処辺り）



に館跡があり、土塁の外側に箱薬研形（はこやげん形：V形堀）が発掘調査で確認されている。

ここで相模原市に別れを告げ、町田市側に戻る。渡った境川の橋が常矢橋という。単純に町田市常盤町の常と相模原市矢部の矢を取って常矢橋と名付けたのであろうか。再度、常盤の信号で町田街道を横断し、日枝神社へ向かう。

《日枝神社》町田市常盤町 3257



永禄元（1558）年に常盤の集落に鎮座されたとされ、大山咋神（おおやまくいのかみ）を主祭神としている。日吉神社・日枝神社あるいは山王神社という社名の神社は山王信仰に基づいて日吉大社より勧請を受けた神社で、日本全国に約3,800社あると言われている。神仏習合期には山王（山王権現、日吉山王など）と称され、山王さんの愛称で親しまれている。猿を神使とする。山王とは、滋賀県大津市坂本の日吉（ひえ）神社（大社）の別名である。

境川沿いの神社仏閣を訪ねながら、また時には境川の遊歩道に戻る旅は歩行距離が長い。日枝神社に別れを告げ、町田街道を横断して境川に戻り、暫く境川の遊歩道を往く。矢部町に到達すると、左手に大きな森が見えてくる。

《箭幹八幡宮》町田市矢部町 2666



森に近づくと、そこはもう箭幹八幡宮の境内。石柱鳥居を潜ってからの林間参道がべらぼうに長い。はるか林の先に微かに隨身門が見える。本日訪問した幾つかの神社の中では一番境内が広い？木柱鳥居に達したその先が、石段を登って隨身門、その奥が本殿となる。

推古 24 (616) 年 (1400 年前です) 勅命により勧請創建された旧小山田領 17 郷の総鎮守



である。祭神は応神天皇 (第 15 代)、康平 5 (1052) に源義家 (八幡太郎と称す) が安倍氏討伐のため、前九年の役^{a)}での戦勝を祈願して箭幹を奉納したと伝えられている。

社殿は再々、火災で焼失し、現在の本殿と隨身門は享保 5 (1720) 年に建造された。それでも約 300 年前の建造物である。

a) 前九年の役とは、平安末期、陸奥の豪族安倍頼時・貞任 (さだとう)・宗任 (むねとう) らの反乱を源頼義・義家らが平定した戦い。1051 年から 62 年の 12 年にわたる。後三年の役とともに、源氏が東国に勢力を築く契機となった。後三年の役は、前九年の役の後、奥羽を実質支配していた清原氏が消滅し、奥州藤原氏が登場するきっかけとなった戦いである。

b) 前九年は、今でも盛岡市内に前九年、安倍館町の地名として残っている。

また後三年は JR 奥羽線の駅名で横手駅 (秋田県横手市) の次に後三年駅 (秋田県仙北郡美郷町飯詰字東山本 107) がある。

町田の境界を巡る旅の 9 回目はここで終了となる。町田街道に出ると、街道の向いは桜美林大学の町田キャンパス (常磐町 3758)、帰路は神奈中バスにて町田バスセンターへ向かう。最終回は 10 回目で JR 横浜線淵野辺駅前に集合し、再度境川を目指し、相模原市側の神社仏閣を訪問しながら町田市役所がゴールとなるようだ。

【文責：専務理事】